



研究成果を発信しました

本校では、平成25年度より、研究主題を「思考の活性化による認識の深まり」と掲げ、4年間にわたり、教育実践に取り組んできました。6月16日（金）には、本年度の教育研究発表会を開催し、全教科及び道徳、外国語活動の公開授業をとおして、最終年度の研究成果を発表しました。また、文部科学省初等中等教育局視学官の澤井陽介先生をお招きし、講演会を行いました。当日は、県内外の先生方、教育関係機関の先生方、大学生等、500人を超える参会者とともに、充実した研修を行うことができました。



【思考を深めていく子供たち】



【熱心な議論が交わされた事後協議会】

また、4年間の研究成果をまとめた著書『「深い学び」のある授業 ―思考の活性化による認識の深まり―』（A5版208頁）を東洋館出版社より発行しました。本著では、「理論編」にて、授業づくりのポイントを10項目に絞って提言し、「実践編」にて、教科・領域毎に授業の具体を示しています。3月に文部科学省から新学習指導要領が告示され、これからの教育についての指針が示されました。キーワードは「主体的・対話的で深い学びの実現」だと考えます。それに向けても意味のある著書に仕上がったと自負しています。



最後になりましたが、ふたば会役員の皆さんには、前日の生花飾り付けに始まり、当日の受付、接待、交通、児童係に至るまで、教育研究発表会をバックアップしていただきまして、たいへんありがとうございました。ふたば会の皆さんのご協力がなければ成り立たない学校行事です。今後とも、本校へのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

水泳指導の季節になりました

「先生、今日はプールありますか？」と、朝、教官室に聞きに来る子供が増えてきました。プールに入りたいのでしょうか？それとも、嫌なののでしょうか？「プールはいつもありますよ」と言いたい気持ちを抑えて、「今日は大丈夫だと思うよ」「ちょっと無理かな」と言います。附属学園では、①水温と気温の和が50℃を満たすこと、②警報や注意報が出ていないこと等を考慮して、プールの使用ができるかどうかを決めています。プールの開設時期も短いので、プールに入れる日には、できるだけプールに入りたいと思っています。子供たちには、水に親しみ、水泳の技能を高めてほしいと思います。



【水に親しむ子供たち】

宿泊学習が始まりました

先週、4年生のグリーンスクール（砺波青少年自然の家 22日～23日）が終わり、今週は5年生の能登臨海学校（能登青少年交流の家 27日～29日）を行っています。

私は、4年生のキャンドルサービスを見てきましたが、一部のキャンドルの集いは厳かに、二部のダンスフェスティバルは賑やかに・・・と、けじめをもって活動している姿に感心しました。ダンスの精度も高かったです。



【ダンスフェスティバルの一場面より】

この後、6年生の立山登山、修学旅行、3年生のなかよし合宿（呉羽少年自然の家）があります。以前は、6年生が能登へ行き、5年生が立山へ行った。6年生の修学旅行が3泊4日で、冬にはスキー宿泊もあった。6年生の宿泊学習は平湯でキャンプをしていた。その他、利賀や妙高に行っていたこともあった・・・など、いろいろな変遷を経て、本校の宿泊を伴う体験学習が今の形になっています。

3年生が宿泊学習を行ったり、6年生が県外に修学旅行に行ったりする学校は、県内では珍しいと思います。しかし、これらの活動を通して、①集団で行動するときのマナーを身に付ける。②友情を深める。③自然に親しむ。などの力が身に付くことを期待しています。

（副校長 曲 師 政 隆）